

大会規則

1. 試合時間およびイニング

(1) 試合は、6 イニング制とし試合開始の「プレイ」宣告後、1 時間 30 分を経過したら、新しいイニングに入らない。(そのイニングを最終イニングとする。)

(注) 規定時間が経過したら、イニングに関係なく正式試合とする。

(2) 6 イニングを終了するか、規定時間を経過し同点の場合、特別延長戦を行う。

(3) 特別延長戦を行っても、決着がつかない場合、抽選により勝敗を決定する。

抽選は〇×式とし、〇印の多いチームを勝ちとする。

2. 特別延長戦 (タイブレーク)

特別延長戦は、継続打順とする。継続打順は、前のイニングの最終打者を 1 塁走者とし、その前の打者を 2 塁走者とする。すなわち、無死 1・2 塁の状態にして 1 イニング試合を継続し、得点の多いチームを勝ちとする。1 イニングで勝敗が決定しない場合、2 イニングを限度として継続打順でこれを繰り返す。ただし、日没、降雨等で試合の継続が困難となった場合は、特別延長戦を実施せず抽選により勝敗を決定する場合がある。

3. コールドゲームを採用する。

コールドゲームは、3 イニング終了以降 10 点差、4 イニング終了以降 7 点差とする。

4. 降雨、日没等により、試合が続行不能となった場合、4 イニング目を終了している時(後攻チームの得点が多い場合は、4 回の表を終了した時)は、成立試合とする。なお、4 イニング目を終了していない場合、ノーゲームとして再試合を行う。

(川崎区少年野球連盟のローカルルール・競技者必携では 5 イニング終了が成立試合規定)

5. 試合開始時刻になっても、来場しないチームは棄権と判断する。

6. 選手、監督、コーチのユニフォームは、同色、同型、同意匠のユニフォームを着用すること。

なお、エクストラロングスタイルズボン(ストッキングが目えないズボン)の使用を禁止する。また、選手以外でユニフォームを着用できるのは、監督およびコーチ(2 名)とする。

7. 試合のスピードアップのため、試合中、野手間のボール廻しを禁止する。

8. 投手の変化球投球は禁止する。

9. 投手のリストバンド使用を禁止する。

10. ベンチ入り対象者は、登録された代表者、監督、コーチ(2 名)、スコアラー、マネージャーおよび選手 10 名以上 25 名以下の範囲とし、最大 31 名までとする。ただし、夏季期間は、給水補助係りとして女性 2 名のベンチ入りを認める。なお、ベンチ入りする給水補助係は、チームの帽子着帽と運動靴および長ズボンを着用すること。

11. ユニフォーム着用者以外は、ベンチを出てフィールド内に立ち入ることを禁止する。

12. 試合中、審判員に異議を申し立てることを禁止する。

ただし、ルール上の説明を求める場合、監督(監督代行者)が行うものとする。

13. 打者または走者が負傷した場合、治療等の対応のため一時的に代走者に変えることができる。この場合の代走者は、負傷者の打順からもっとも離れた打順の選手とすること。ただし、最も離れた打順の選手が投手および捕手の場合、その前の打順の選手に変えることができる。

14. 打者、次打者、走者およびベースコーチは、両側にイヤーフラップの付いた J・S・B・B(日本軟式野球連盟)公認の SG マーク付きヘルメットを着用すること。

15. 捕手は、J・S・B・B が公認したレガース、プロテクター、ヘルメットおよびマスクを着用すること。また、捕手は安全のため、ファールカップを着用すること。

16. 使用バットは安全性の確保のため、一般・少年用共に打球部にウレタン・スポンジ等弾性体を取り付けたバットの使用を禁止する。金属バットは、J・S・B・B 認定のものを使用すること。
17. 守備側が取れるタイム制限は、以下とする。
 - (1) 監督および捕手または野手が投手に行ける回数は、それぞれ 3 回以内とする（監督：3 回以内、捕手または野手：3 回以内）。なお、特別延長になった場合、2 イニングでそれぞれ 1 回行くことができる。
 - (2) 監督が同一イニングで同一投手のもとへ 2 度目に行くか、行ったとみなされた場合（伝令を使うか捕手または他の選手に指示を与えて直接投手のもとへ行かせた場合）は、投手は自動的に交代とすること。
 - (3) 捕手または野手が投手のもとに行き、そこに監督が行けば双方 1 回として数える。但し、投手交代の場合は、監督のみ回数に数えない。
18. 攻撃側が取れるタイム制限
1 試合に 3 回以内とする。なお、特別延長になった場合、2 イニングで 1 回とする。
19. 本大会では、野球規則五・一〇【原注】同一イニングに於ける投手の守備位置変更制限規定は適用しない。したがって、投手の守備位置の変更は自由である。
(川崎区少年野球連盟のローカルルール・野球規則五・一〇では同一イニングで投手→野手→投手になった場合、その次には野手に戻れない規則)
20. 大会に出場するスタッフ（代表、監督、コーチ、スコアラー、マネージャー、給水補助係）および選手は、スポーツ保険に必ず加入すること。なお、試合中に発生した事故については、大会本部で応急処置を施すが、その後の対応および保険会社へのスポーツ保険適用の手続き等は、各チームの保険加入責任者が行うものとする。
21. ベンチ入り指導者の審判員、相手チーム指導者、選手は勿論、自チーム選手に対する暴力行為を厳禁する。このような事態が発生した場合、対象者を退場処分とする。
22. 投手の投球制限は、以下の通りとする。
1 人の投手は 1 日 70 球以内とする。継続して 70 球に達した場合、その打者の打撃が完了するまで投球できる。ボークにもかかわらず投球した場合は投球数とする。また、一日でダブルヘッダーや特別継続試合を行う場合や、タイブレークとなった場合、1 日 70 球以内であれば引き続き投球することができる。すなわち通算 70 球とする。
23. 登録したスタッフ（監督、コーチ 29、コーチ 28）がベンチ入りできない場合は、対象試合を辞退すること。ただし、事前に大会本部へ代理申請を行い、認められた場合は、その限りではない。
24. 熱中症防止対策として、一方的な試合展開となり守備時間が長くなった場合（約 20 分を目安）、試合時間を一旦中断し、守備側に給水時間を与える場合がある。この場合の給水時間は、約 5 分間目安とする。
25. 上記に記載なき事項は、日本野球連盟発行公認野球規則および全日本軟式野球連盟発行競技者必携最新版の規定事項を適用する。

大会注意事項 (1/3)

【試合開始までの注意事項】

1. 開会式および閉会式に出場する際は、必ずプラカードを持参すること。プラカードのサイズは、縦 30cm、横 60cm、全高 90cm とし、白地に黒または青文字書きとする。
2. 試合会場が小学校の場合、スパイクの使用を禁止する。
3. 試合進行の状況によっては、予定時間より早く試合を開始する場合があるため、試合進行状況を確認し、前の試合開始時間には、球場に到着して待機すること。
4. ベンチは、組み合わせの若い番号を 1 塁側とする。
5. メンバー表の記載内容を確認するため、試合会場に到着後、攻守決定前にメンバー表を大会本部に提出すること。なお、メンバー表は、監督または監督代行が大会本部に提出すること。
6. メンバー表の提出部数は、次の通りとする。
 - (1) 1 回戦および 2 回戦 4 部 (自チーム、相手チーム、審判、本部)
 - (2) 準決勝以降 5 部 (自チーム、相手チーム、審判、本部、放送担当)
7. 試合開始 1 時間後または 2 イニング目終了時、監督立ち会いの上で両チームのキャプテンにより先攻・後攻を決める。先行・後攻を決定後、グラウンド内で先発投手の投球練習を開始することができる。
8. 先攻・後攻を決定する際、捕手がファールカップを装着していることを確認する。
9. 第一試合目および第二試合目以降の練習時間は、基本的に次の通りとする。
 - (1) 第一試合目の場合
 - ・試合開始予定 1 時間前にグラウンド内で練習することができる。
 - ・試合開始予定時間の 30 分前に先攻・後攻を決定する。
 - ・試合開始予定時間の 20 分前に後攻チームのシートノックを開始する。
 - (2) 第二試合目以降の場合
 - ・ベンチ入り後、直ちに外野グラウンドでキャッチボールを開始すること。キャッチボール時間は 5 分とする。キャッチボール終了後、後攻チームからシートノックを開始する。
10. 準決勝戦に引き続き、三位決定戦または決勝戦がある場合、特別の理由がない限り準決勝戦の 2 試合目が終了後、20 分を経過したらグラウンド内で練習を開始し、原則として試合終了後 30 分を経過したら試合を開始する。この場合、試合前のシートノックは行わない。
11. 試合開始前グラウンド内での練習は、外野でのキャッチボール、ベンチ前のサイドノックおよびベンチ前の素振りのみとする。なお、素振りを行う場合、選手間の距離を十分確保すると共に、監督およびコーチが状況を監視し、選手の安全を確保すること。
12. シートノックの際、個別のノッカーが内野と外野を同時にノックすることを認める。
13. シートノックは、後攻チームより 5 分間行うものとする。ただし、試合進行の関係でシートノックを実施しない場合がある。なお、この場合、外野でのキャッチボールとサイドノック時間を合わせて 7 分間のインターバルで試合を開始する。
14. シートノック時のノッカーは、監督またはコーチが実施すること。また、シートノックの際、捕手またはノッカーにボールを渡すボールキーパー(選手)は、3 名以内とし、危険防止のため、ヘルメットを着用すること。なお、ボールキーパー(選手)が 3 名に満たない場合は、監督またはコーチがキーパーを助勢することを認める。
15. 球場周辺では、ノック、キャッチボール、素振り等、用具を使用した練習を禁止する。
16. 試合実施チームは、両チームのシートノック終了後、グラウンド整備を実施すること。この時、スタンドで観戦するコーチ、父母の支援を認める。ただし、帽子、ズボン、運動靴を着用のこと。

大会注意事項 (2/3)

【試合中の注意事項】

1. 試合中は、レガース、プロテクター、ヘルメットを着用したサブ捕手を準備すること。
また、サブ捕手はマスクを着用し投手の投球練習(ブルペンの投球練習を含む)を受けること。
2. サブ捕手を準備できない場合、捕手の捕球位置で試合に出場している野手が立ち姿勢で投手の投球練習を受けること。この場合、マスクを装着する必要はない。
3. 試合会場は、試合開始と同時に出入り口を封鎖し、大会関係者以外の出入りを禁止する。
また、特別な理由がない限り、試合開始のあいさつ終了後は、指導者または選手のベンチ入りは認めない。
4. ファウルボールの処置は、1 塁側に止まったボールは 1 塁側チームが拾い、3 塁側に止まったボールは 3 塁側チームが拾うこと。また、捕手の後方に止まったボールは、攻撃側チームが拾い審判に手渡すこと。なお、ボールを拾う選手(バットを片づける選手を含む)は、一人とし危険防止のため、ヘルメットを着帽すること。
5. 危険防止のため、ネクスト・バッターサークルでのバットの素振りは禁止する。
6. 危険防止のため、打者の 1 塁へのヘッドスライディングは行わないこと。
7. 試合開始の時に全員で挨拶を交わすため、打者は打席に入る前に挨拶しなくても良い。
また、試合終了後、相手側ベンチ前に挨拶に行かなくても良い。
8. ベンチ入り指導者および試合観戦の父母が審判、相手チームおよび自チームの指導者および選手に対し聞き苦しい言葉を発した場合、審判団または大会本部の判断でベンチおよび球場から退場を命ずる場合がある。

【試合進行スピードアップのための注意事項】

1. 試合中にレギュラー捕手がレガース、プロテクター等の防具を装着する際は、ベンチ入りの指導者が補助し、試合の進行を円滑にすること。
2. 打者および走者とベンチとのサイン交換は、迅速に行うこと。
3. ランナーコーチは、攻撃時の円陣に加わらず速やかに所定の位置に移動すること。
4. 攻守交代は、駆け足で行い、スリーアウトが成立したら、選手は素早くベンチから離れて、守備位置に向かうこと。特に、投手および捕手は投球練習があるため、率先してベンチを出ること。
5. 打者は、バッターボックス内でベンチからのサインを確認すること。
6. 捕手は、投球を受けた捕球位置から投手に返球すること。また、声出しも捕球位置から行うこと。
7. 投手は、捕手からの返球を受けたら、直ちにプレートに付き投球姿勢をとること。
8. 打者は、すみやかに打席に入り打撃姿勢をとること。
9. 走者は、ファールボールが打たれた時は、駆け足で元の塁に戻ることに。
10. 内野手がピッチャープレートに集まる場合は、往復駆け足で行いプレーの進行を遅らせないこと。

大会注意事項 (3/3)

【試合終了後の注意事項】

1. 試合実施チームは、試合終了後、グラウンド整備を実施すること。この時、スタンドで観戦するコーチ、父母の支援を認める。ただし、帽子、ズボン、運動靴着用のこと。
2. 使用したベンチを速やかに次の試合チームに受け渡すこと。
3. 勝利チームは、次の試合用メンバー表を大会本部から受け取ること。
4. 会場が学校の場合は、ゴミ、空き缶等は、すべて試合実施チームが持ち帰ること。
また、大師少年野球場の場合は、ゴミは公園内のゴミ箱に捨てるかまたは持ち帰ること。
スタンドや球場周辺にゴミを放置しないこと。
5. 小学校の敷地内は全て禁煙地域に指定されているため、喫煙する場合、校外の指定された場所を使用すること。また、その際、たばこの吸い殻をジュース、コーヒー等の空き缶に入れて学校周辺に放置しないこと。

【審判員に関する注意事項】

1. 審判員は、連盟審判員(大会役員名簿に記載された審判員)および連盟副審判部長が推薦し、連盟審判部長が認定した審判員が担当すること。
2. 審判員は、担当する試合の前の試合が開始する時間には球場には到着し、待機すること。
なお、第一試合の担当審判は、第一試合開始予定の1時間前に球場に到着し、待機すること。
3. 審判員は、試合開始前に以下の選手用具を点検すること。
 - ①レガース、プロテクターに JSBB マーク、マスクに SG マークが表示されていること。また、外観損傷の有無、金具、緩衝材の取付け状態を点検する。
 - ②バットに JSBB マークが表示されていること。また、曲り、損傷、打痕の有無およびグリップテープの装着状態等を確認する。
 - ③ヘルメットに JSBB マークが表示されていること。損傷および亀裂の有無と緩衝材の装着状態を点検する。
4. 審判担当者は、試合中に不都合が発生した場合、試合担当審判間で協議し、試合の運営に影響しないように適切な処置を行うこと。なお、野球規則、大会規程、球場ルール等で審判団では判断できない場合は、球場付き責任審判員または大会本部役員に確認し、適切な判断を仰ぐこと。
5. 審判員は、川崎市学童野球連盟が規定している審判服または他の野球関連団体が規定している審判服と黒色または白色の靴を着用すること。
6. 大会初日・2日目の審判は、下記の表 1.審判担当表により参加チームが担当すること。
準決勝および決勝戦は、審判部が担当する。

表. 審判担当表

2 試合実施 の場合	試合	第一試合		第二試合	
	審判	第二試合 実施チーム		第一試合 実施チーム	
3 試合実施 の場合	試合	第一試合	第二試合	第三試合	
	審判	第三試合 実施チーム	第一試合 実施チーム	第二試合 実施チーム	
4 試合実施 の場合	試合	第一試合	第二試合	第三試合	第四試合
	審判	第二試合 実施チーム	第一試合 実施チーム	第四試合 実施チーム	第三試合 実施チーム

大会運営に関するお願い事項

1. 球場設営のお願い

- (1) 試合開始前の球場設営は、各チームの試合開始場所を担当してください。
球場設営開始時間は、第一試合開始時間の 1 時間前とします。
また、練習時の声出しは午前 8 時 00 分以降とし、試合開始前の挨拶から行うこと。
- (2) 準決勝までに敗戦したチームも、大会期間中の球場設営、後片付けに積極的に参加をお願いします。

2. 放送当番のお願い

- (1) 準決勝に進出したチームは、放送を担当してください。
- (2) 放送当番は、下表により実施してください。なお、放送の役割分担は、担当チーム同士で決めてください。
- (3) 放送マニュアルは、川崎区少年野球連盟のホームページからダウンロードができますのでご利用ください。

表 放送担当分担表

		担当試合			
		第一試合	第二試合	第三試合	第四試合
大会三日目	試合	準決勝	準決勝		
	放送担当	試合 実施チーム	試合 実施チーム		
大会四日目	試合	三位決定戦	決勝戦		
	放送担当	試合 実施チーム	試合 実施チーム		

3. BSO および得点係のお願い

- (1) 大師少年球場の試合における BSO および得点係は、試合実施チーム（各 1 名）にて担当いただきますようお願いいたします。